

Building lifestyle around Ferrari

インプット&アウトプット

こちらの2枚の写真は、いずれも今号で取材したイベントで撮影したもの。
世の中が動き出している……。いずれもそう実感するものだった。

今 この原稿を、他のページの原稿を全て書き終えた、12月某日の夜中に書いている。20～30歳台前半は徹夜当たり前だったが、体力的にも翌日の効率的にも無理を感じて、今はなるべく朝型の生活を心掛けている。というわけでこれだけは寝てから書こうと思ったのだが、締め切りがそれを許さず、2021年夏に手に入れたばかりの、ピアレットィで淹れたエスプレッソで目を覚まして、PCに向かっている。

ここまでギリギリになったのは、振り返れば意外と取材量が多く、それをアウトプットするのに時間が思った以上にかかったからだ。296GTBの日本デビューに始まり、富士スピードウェイでのパッシオーネ・フェラーリ、清水草一センセイと銚子をSF90ストラダレで目指したフェラーリ地味トリップ、約60台のフェラーリが集まった第2回秋のフェラーリ祭りに、レクサスやヤンマーという日本ブランドのボート試乗や、もちろん初めて撮影したヴァイオリンの弓、実はちゃんと取材してきているモンブランの万年筆やパレスホテル東京の取り組み、そしてポルトフィーノ Mの試乗が土壇場で加わり……といった塩梅だ。そういえばフィナーリモンディアーリに参加した塚

本さんの電話インタビューもしたし、パンサー・フェラーリの調査のためル・マン・ガレージさんにも行った。

……正直やりすぎである。しかし振り返れば、どれも取材＝インプットを楽しんでいる自分がいた。そして、これは明らかに日常が戻ってきていると実感もしている。事実、この秋は自動車関連のイベントが目白押しだった。私が取材に訪れたフェラーリ関連のイベントは写真の2本のみだが、実はル・マン・ガレージの北島忠男さんに別のブランドのイベントで久しぶりに再会したことが、今回の取材に繋がっている。

前号の当コラムでそういう場が減っていることに危機感を覚えていると書いたが、戻ってきた日常により具体的な成果を得たことで、やはり人と会うことは大事なのだと再認識。先日も久しぶりに直接話した同僚と、思わぬ企画の話が出て……。

だからやりすぎではあるが、やめるつもりは(あまり)ない。(あまり)と弱気になったのは、だいたい夜が深まってきたからだ。明日というか今日、このページの校正を読むのは正直気が引けるが、インプット&アウトプットという編集者にとって命となる行為を重ねた結果と、前向きに捉えることにしよう。

